

銀行預金店頭金利の横並び状況と市場金利への追随率：2005～2025 年度

日本大学 杉山 敏啓

埼玉大学 中川 忍

1. 預金店頭金利パネルデータの整備

銀行預金の店頭表示金利は、自行が取り扱う商品の定価として、それぞれの銀行が自主的に決定する。預金金利は、政策金利の変更などによって市場金利が大きく変化すれば、それに追随して改定される。本研究では銀行別・商品別の預金店頭金利の週次パネルデータを 2005～2025 年度にわたって整備した上で、預金金利の横並び状況と市場金利への追随率を調査分析した。

2. 預金金利の横並び状況

都市銀行・地域銀行について預金金利の横並び・多様性の状況を調査したところ、普通預金金利は横並びの傾向が強く、店頭金利が全行同一で完全横並びの週が過半であった。定期預金金利は、低金利期には完全横並びの週がみられたが、利上げ期には店頭金利の多様性は高まり、満期が長い定期預金ほど店頭金利のバラつきが広がる傾向がみられた。

3. 預金金利の市場金利追随率

都市銀行・地域銀行について、預金金利の市場金利への追随率をパネル共和分の手法を用いて銀行別に推定した。全観測期間による推定結果は、無担保コールレート O/N を説明変数とした普通預金金利の追随率は 36% で全行がほぼ横並びであった。預金金利と同一満期の市場金利を説明変数とした定期預金金利の追随率は銀行間でばらつきが認められたが、全行平均を例示すれば 6m が 32%、1y が 38%、5y が 41% と満期が長いものほど高い順序性が窺われた。

2024 年 3 月に日本銀行がマイナス金利政策を解除して以降（今回利上げ期）を観測期間として推定したところ、普通預金金利の追随率は 40% で横並び、定期預金金利の追随率はこれよりも低い銀行が多数であった。銀行が流動性預金から定期預金へのシフトを警戒してか、定期預金金利の引き上げの程度を以前よりも抑制的にしている可能性が窺われた。

どのような銀行が定期預金金利を抑制的にしているのか。定期預金金利 1y について、今回利上げ期における銀行別の市場金利追随率を被説明変数とした回帰分析を行ったところ、流動性預金の平均満期が長い、小規模、預貸比率が低いなどのプロファイルの銀行が、定期預金金利の引き上げの程度を以前よりも抑制的にしている可能性の示唆を得た。なおバーゼルⅢの銀行勘定金利リスク管理規制の上で、流動性預金の平均満期は標準的手法で 1.25 年と定められているが、コア預金内部モデル手法を採用する銀行の多くは、これを超える平均満期を認定している。

以 上